

これまでいただいた漁業影響調査や振興策に関する主なコメント

1. 漁業影響調査関連

- やはり風車が建つ前の自分たちが働いている場所、海がどうなっているのか現状把握からやるべき、やっていただきたいとの思いでおります。建設途中、建設終了後も、継続的に調査をしていただきたい。遊佐沖の場合、想定海域の南側に大きな川があります。例えば、漁場では、川から流れてきたものが風車のシャフトに引っかかって漁場が荒廃するような心配もあるわけです。そういったところも調査の中に入れてほしい。(第2回)
- 既存の漁法、漁具でやっているのにどう影響あるかは分けて考えていかないと、環境アセスの面と漁業影響評価の面は分けてやらなければならないと思って、ここ春から環境アセスをやっていますけども、そのように感じております。(第2回)
- 風車の設置工事中、発電事業運用後にも同様の調査を実施し、比較、影響評価をお願いしたい。その場合、万が一影響が確認された場合には、誰がどういった対応策を実施するかもあらかじめ明らかにしてほしいと願っております。(第1回)
- 環境影響評価は学識経験者などが実施すると思われませんが、影響評価に対しても海面・内水面の関係漁業者を含む実務者による評価会議も設置をお願いしたいと思っております。(第1回)
- 遊佐沖海域の事前の一般的な環境調査はもちろん、特にサケ稚魚の北上経路や親魚の回帰経路の把握をお願いしたいと思います。(第1回)
- 回遊の経路には遊佐沖だけではなくて秋田県、青森県、北海道、日本海側に風力発電の計画があります。遊佐沖での影響評価だけではなくて、その回遊経路に計画されている地域と連携した情報交換や評価調査が必要ではないのでしょうか。(第1回)
- サケの北上経路としては沿岸から2キロくらい、サクラマスはさらに沿岸を北上すると聞いております。親魚の回帰経路、帰って来る経路は不明なところが多いのでありますが、河川への遡上に対する影響が懸念されるため、回帰経路の明確な調査が必要。(第1回)

- 特に各地の有望区域や促進区域に出されているサケやサクラマスに関する懸念事項の情報を共有できるようにすること、また、その懸念事項に対するモニタリング調査と環境影響評価、そしてその対応策など、情報も共有しながら、サケやサクラマスに関する懸念事項が払拭できるようにしてほしい。(第1回)
- アユの稚魚の砂浜域での生息状況のモニタリング調査に加えまして、人工構造物が設置されることによりアユの稚魚にとって重要な砂浜域に変化が起きないか、懸念をしている。(第1回)

2. 振興策関連

- 地域の活性化という視点から言えば、どうしても酒田北、酒田港の基地港湾化というのは必要なことだと思いますし、やっぱり将来の水素社会を踏まえたインフラ、そして研究施設等の投資をこの地域に呼び込んで、発電して電気が全て中央に届けるのではなくて、この地域でそれらの活性化の、そして雇用につながる、そのような水素社会に向けての展望をしっかりと見据えた形で展開できればありがたい。(第1回)
- 振興策も非常に重要ですし、風車が建っても、今やっている漁業がずっと続けられるような振興策等を考えていただきたいと思っております。(第2回)
- 事業者と漁業者との共生を語るのであれば、事業者側は魚礁を入れて終わり、こういった施策を持ってきました、それで終わりではなくて、その効果が漁業所得の向上に役立っているのかを検証して、効果がなければ、漁業者と一緒に対策を考える、これが必要だと思っております。(第2回)
- 持続可能でクリーンな洋上風力発電を活用した持続可能でエコなサケ資源を造成するという国内初のSDGsに沿った漁業振興モデルである遊佐モデルを創出する。(第1回)
- 既存の観光資源を有機的に結びつけた観光産業を創出するとともに、クリーンなエネルギーの地産地消による新たな産業の創出により雇用も生み出すよう、地域振興が必要。(第1回)